



5月1日現在在籍数 284名

気仙沼市立松岩小学校

■ 本校の教育目標 ■

志を持ち、  
かしこく、やさしく、たくましく  
生きる児童の育成

令和6年度 学校だより NO. 2

令和6年5月1日（水）発行

「私、感動して涙が出そうになりました。」

気仙沼市立松岩小学校 校長 佐々木 裕作

「私、感動して涙が出そうになりました。」

ある日の放課後、養護教諭の大内優那先生が、私の隣でこうつぶやきました。

そのほんの少し前、実は、私も同じことに感動し、校庭にいる子供たちに、ハンドマイクを持って、「6年生の皆さんの応援、とてもすばらしい。走っている人は、本当に苦しいと思うけれど、その応援で頑張れるはずですよ。みんなでみんなを応援する姿は、本当にすばらしいですよ。さすがです。」ということ伝えていました。

4月末、6年生の子供たちを中心に市内体育祭に向けての練習を行いました。先に紹介したのは、その練習の時のことです。その日は、長距離走の記録を取る日でした。多くの先生方が居所調査で不在のため、体育専科の千葉優利先生、5・6年算数担当の内海浩一先生が中心となって指導を行っていました。

私が子供たちに声を掛けたのは、6年1組の男子の記録が取り終わった時です。とにかく、子供たちの応援の音が校庭中に響いていました。同じクラスとか、友達とか、男女とか全く関係なく、みんなでみんなを応援しているのです。私もそうでしたが、運動が苦手な子にとって、長い距離を走り続けるというのは、なかなか大変だし、苦しいものです。でも、この応援があれば、きっと頑張れると思いました。

中でも印象的だったのが、後ろの方で走っていた二人の姿でした。他の子供たちからは大分離れて走っていた二人でした。一人は、苦しさからか、涙を拭きながら走っていました。もう一人は、更にその後ろを苦しそうな表情で走っています。涙を拭きながら走っていた子は、途中で歩き始めてしまったため、その後ろを走っていた子が、その子に追いつきました。すると、追いついた子は、思いもよらない行動を起こしました。なんと、涙を流して走っていた子の肩をとんとんとたたき、励ましたのです（何か声を掛けたと思うのですが、その声は聞こえませんでした）。すると、歩いていた子がゆっくりですが再び走り始めました。自分もとてもきつく、苦しいはずなのに、相手を励ます優しい気持ち、そして、お互いに頑張ろうとする姿。この姿を見て、優那先生は感動したのだと思います。私もうれしさから子供たちに声を掛けたくなり、前述のようなことを子供たちに伝えました。「応援が力になる」とは、まさにこのことだと思います。

6年1組男子の後は、6年1組女子の記録測定の予定でしたが、あいにくの雨のため、ここで練習は終了となりました。練習を続けていれば、大きな応援を受けながら、最後まで諦めず、一生懸命に走る子供たちの姿をきっと見ることができたことでしょう。

最高学年である6年生のこのような姿は、きっと他の学年のよいお手本となるはずです。

先日は、1年生を迎える会がありました。2年生から6年生の子供たちは、1年生に楽しんでもらおうと招待状や飾り物、プレゼントなど、学年ごとに役割分担をしながら準備を進めてきました。1年生の子供たちも楽しそうで、みんなが楽しめる会となりました。

「頑張っている人を応援する」「誰かのために頑張る」。どちらも子供を成長させる上で、大切なことだと強く思いました。